「俳句界」四月号　「2023 評論展望」　川名　大

槍田良枝「三橋鷹女の世界（十）～（十五）」

（既出）―「小野蕪子と原石鼎との関係」では小野蕪子の第一次「鶏頭陣」から「草汁」を経て原石鼎の「鹿火屋」創刊に至る経緯と、蕪子が雑詠欄を担当した「虎杖」を改題した第二次「鶏頭陣」の創刊の経緯を通して蕪子と石鼎の関係に言及。以下「連作俳句と『鹿火屋』退会」から「『鶏頭陣』と『紺』の並立時代」までの二年間（昭10～11）は『現代名家女流俳句集』（交蘭社・昭11）の収録句を含めて、「冒険的なる句作」の新風の確立に言及。

「鶏頭陣」と「紺」からの丹念な句の収集と的確な読みを通して、連作による新風の展開　を解き明かす。その背景として、蕪子の説く「型に囚われず美の急所をつかむ」「思想的に開眼した心魂を打込んだ俳句」という俳句観への鷹女の信頼と、それに基づく自由奔放な鷹女の新風への蕪子の幅広い選句眼があったことを解き明かす。鷹女に関して不明だった事柄の解明と先行研究の誤りの修正も多く含まれ、鷹女研究をリードする貴重な論考